

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人お茶の水女子大学

1 全体評価

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、全ての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障されて、自身の学びを深化させ、自由に自己の資質能力を開発させる支援をすることを目指している。第3期中期目標期間においては、国境を越えた研究と教育文化の創造と、夢の実現を支援するための学びの場を提供し、時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成するとともに、女性の生涯にわたる生き方のモデルを提供すること、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、既存組織を改組して「文理融合AI・データサイエンスセンター」を設置するとともに、女性の採用や登用に高い関心を有する企業19社と連携した「女性活躍促進連携講座」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 生命科学・生活科学・人間発達科学分野の成果を集結させて文理融合の研究を行うヒューマンライフイノベーション開発研究機構の下に設置した二つの研究所「ヒューマンライフイノベーション研究所」及び「人間発達教育科学研究所」において、「健やかな育ち」、「活力ある暮らし」、「元気な老い」を研究テーマとして掲げ、重点研究分野（コア・コンテンツ）を「発達障害」、「炎症性疾患」、「生活習慣病」と定めて研究及び開発に取り組んだ結果、令和2年3月に実施した中間評価において、学外の有識者を含む9名から組織する「機構評価委員」により、特に「生命科学部門」「食物栄養部門」について、優れた研究論文等の業績が高く評価されている。（ユニット「健康科学・人間発達科学分野における国際的研究拠点形成」に関する取組）
- グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点の形成に向けて、女性研究者の招へい、国際シンポジウムやワークショップの開催、短期派遣プログラムの実施等を通じて連携を強化し、女性のリーダーシップ育成や、男女共同参画社会の実現に向けた様々な連携を進めており、令和元年度は新たにオックスフォード大学サイドビジネススクール（英国）、キングスカレッジ（英国）、ゴンザガ大学（米国）の3機関との連携を推進し、国際的な研究拠点の構築に向けた海外ネットワーク拡大の取組を加速させている。これにより、令和元年度末時点の海外連携機関は延べ10機関となり、「令和3年度までに海外機関との連携を10機関以上行う」という中期計画を前倒しで達成している。（ユニット「グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ ダイバーシティに配慮したキャンパス環境と新学生宿舎の整備

築50年を超える国際学生宿舎に代わるものとして、大塚キャンパス敷地内に新学生宿舎をBTO方式により建設する整備に着手している。また、日本の女子大学として初めてトランスジェンダー学生の受入れを決定していることを踏まえ、トランスジェンダー学生に対応する施設整備として、多目的トイレ、大学体育館改修工事を実施するなど、計画的なキャンパス環境の整備を実施している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 附属学校教員の働き方改革の取組

附属学校教員の働き方改革について、附属学校の主幹教諭に任期制を導入し、管理職への円滑な任用と負担の公平化を図ることとしている。また、職員会議の短縮化、部活動による拘束時間の短縮化、成績管理のIT化、業務のアウトソーシング化等の働き方改革を推進したことにより、令和元年度においては前年度と比べて約3,705.5時間（附属幼稚園：約90時間削減、附属小学校：約1,710時間削減、附属中学校：約1,560.5時間削減、附属高等学校：約345時間削減）の業務効率化を実現している。